瑞穂区の活動事例

瑞穂区

瑞穂区　御劔学区	住民交流	健康・福祉	青少年育成	環境・美化
	防犯・交通安全	防　災	歴史・文化・芸術	その他

交通安全推進事業

【御劔学区】

■世帯数：3,166 世帯
■人　口：6,832 人
■面　積：0.867ｋ㎡
平成 24 年 4 月 1 日現在

1　活動･取り組みの内容

- 学区内の各種団体、町内会、および空港線（市道堀田高岳線）沿いの企業約 20 社の協力を得て、「交通事故死“ゼロ”の日」に合わせて交通安全の啓蒙活動を行う。
- 毎月１回以上､50～60 人で空港線 800m の両側歩道に概ね 10m 間隔で｢交通安全」ののぼり旗を持って立ち、街頭啓発活動を行っている。

【住民への PR 方法】

企業に文書で協力依頼

【アピールポイント】
学区の各種団体、町内会、そして空港線沿いの企業（約 20 社）の協力で､他の学区に勝る大規模な交通安全街頭啓発活動を行っている。

2　きっかけ、背景

御劔学区内には、スピードが出やすい幹線道路の空港線があり、交通量が非常に多いことに加え、通勤通学の歩行者・自転車利用者も多いため、交通事故が懸念される。交通事故の無い安心なまちづくりをめざして「交通安全推進委員会」を設立し、交通安全の啓蒙活動を行っている。

3 運営体制

（1）運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、老人クラブ、スポーツ推進委員、各町内会、企業

計約 60 人

（2）他団体との協力

各種団体、空港線沿線企業 20 社

4 実施スケジュール

H21 年 4 月　「御剱学区交通安全推進委員会」設立

▼

以降、毎月 1 回、「交通事故死“ゼロ”の日」等に活動

5 成果と課題

（1）成果・効果

参加者が増加し、交通安全に対する住民意識が高まった。企業のほうから「交通安全推進委員会」に加入申込があった。

（2）苦労した点

参加者の確保。中には活動に積極的ではない企業もある。

（3）今後の課題・展望

活動の継続が課題。

（4）メッセージ・アドバイス

御剱学区のような大規模な交通安全啓蒙活動が他の学区、そして名古屋市全体・愛知県全体に拡大し、交通事故のない安心・安全で快適なまちになることを願っている。

瑞穂区　高田学区	住民交流	健康・福祉	青少年育成	環境・美化
	防犯・交通安全	防　災	歴史・文化・芸術	その他

盆踊りで地域との強い絆づくり

【高田学区】

■世帯数：3,369 世帯
■人　口：7,215 人
■面　積：0.615ｋ㎡
平成 24 年 4 月 1 日現在

1　活動･取り組みの内容

- 豆田公園を会場に、毎年夏の 2 日間「盆おどり大会」を開催する。延べ約 1,500 人が参加し賑わう。
- 開催前月には回覧で各家庭に開催を知らせるほか、事前に各家庭に抽選会の券を配布し、参加を促している。模擬店の設置や、ゲストの出演など、子どもたちの参加を促進している。また、併せて高齢者を対象に給食会を開催している。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布・回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】
地域住民が皆で協力してくれる。

2　きっかけ、背景

昭和 55 年から 30 年以上続く盆おどり大会。今後も子ども会・高齢者・地域住民に民踊文化を伝承し、地域との交流を図り、強い絆をつくっていく。

3 運営体制

運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員　計約８０人

4 実施スケジュール

毎年６月	女性会、区政協力委員、学区連絡協議会で役割分担やぐら、公園の使用申請
７月	各家庭に盆おどりのお知らせ 模擬店の打合せ
８月	ポスターの掲示、抽選券の配布、行程表を役員が確認、やぐら設営、当日のパトロールの確認
開催当日	高齢者を対象とした給食会を行う

5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者が増え、地域住民の交流と意識の深まったほか、強い絆ができた。

(2) 苦労した点

住民の理解を得ること。また開催が天候に左右されるため心配。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続、担い手の世代交代、特に活動資金の確保が課題。

瑞穂区　堀田学区	住民交流	健康・福祉	青少年育成	環境・美化
	防犯・交通安全	防　災	歴史・文化・芸術	その他

三世代共存に根ざしたまちづくりへの取り組み
～子ども会からの発信～

【堀田学区】
- ■世帯数：3,238 世帯
- ■人　口：6,458 人
- ■面　積：0.515ｋ㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1　活動･取り組みの内容

主に堀田小学校で季節ごとに子どもから高齢者までの多世代が参加・交流できるイベントを企画開催。

平成 23 年度　春のお楽しみ会「春の遠足」225 人参加
秋のお楽しみ会「陶芸教室」90 人参加
平成 24 年度　春のお楽しみ会「春の遠足・パンづくり」164 人参加
秋のお楽しみ会「陶芸教室」100 人参加予定
もちつき大会・大縄とび大会　200 人参加予定

【住民への PR 方法】
チラシの各戸配布

【アピールポイント】
区政協力委員と各種団体との連携が円滑であるため、住民全体のニーズを引き出しやすく、伝達も行き届きやすいことから、三世代共存に根ざした行事企画が立てやすい。

2　きっかけ、背景

平成 23 年度に、学区子ども会代表が世代交代し、それに伴い、昭和 26 年の設立以来、初めて規約や組織体制、活動内容の改革が行われた。活動が個別化傾向にあった状況から、区政協力委員の協力をはじめ、各種団体、住民との連携や

情報共有がより深まり、三世代共存に根ざしたまちづくりへの取り組みとして、積極的な行事企画・運営・発信に努め、行事への参加者数も年々増加し、地域活動への参加意識が高まっている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、子ども会
計約 15 人

(2) 他団体との協力

愛知キャンプカウンセラー協会

(3) 運営協力

学区子ども会は２年任期が前提だが、役員の負担を少しでも軽減するため、子育てと就労などの両立を重視し、代理制度による役割分担や伝達にはメールを多用し、簡潔で密度の高い連携を行うことにより継続して着任する役員も増えた。

4 実施のスケジュール

学区連絡協議会にて行事企画について提案
▼
学区子ども会幹部会にて再度構築
▼
学区連絡協議会にて行事告知
▼
各単独子ども会会長よりチラシ配布
▼
行事の実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

活動への参加者が増え、住民間の交流が深まった。

(2) 苦労した点

参加者の確保に苦労した。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続、担い手の世代交代、活動資金の確保が課題。行事を通じて町内会未加入世帯の参加意識を高めていきたい。

(4) メッセージ・アドバイス

区政協力委員をはじめ、各種団体との連携を積極的に図ることにより、住民への伝達も行き届き、一人でも多くの人が地域活動に参加意識を持つことにつながる。

瑞穂区　穂波学区	住民交流	健康・福祉	青少年育成	環境・美化
	防犯・交通安全	防　災	歴史・文化・芸術	その他

三世代ふれあい事業
“バルーンランドにっこにこ笑顔いっぱい”

【穂波学区】
- ■世帯数：4,289 世帯
- ■人　口：8,671 人
- ■面　積：1.075ｋ㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1　活動･取り組みの内容

- 三世代ふれあい事業の一環として、学区子ども会連合会が中心になり、連絡協議会協賛により「バルーンランド」を開催。
- 穂波小学校体育館を会場に、風船を使ったイベントで「バルーンショー」と３つの体験ブース（①作って楽しい、②遊んで楽しい、③変身コーナー）のプログラムに約 350 人が参加した。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】
“子どもは地域の宝もの”など各種団体が知恵を絞り、各事業を執り行っていること。

2　きっかけ、背景

穂波学区では「守ろうよ 私の好きな町だから 学区は一つの家族です」を合言葉に学区運営に取り組んでいる。また学区住民は地域に住む子どもたちを“子どもは地域の宝もの”と考え、各種事業を執り行い、見守っている。

3 実施の体制

（1）運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ

計約５０人

（2）他団体との協力

企業から風船の提供

（3）運営協力

地域事業には参加してもらえるが役を引き受ける人が少ない。

時間をかけて少しずつ理解してもらい役員となってもらっている。

4 実施のスケジュール

H23 年 11 月	子ども会が中心となり行事内容を立案
▼	
12 月	学区連絡協議会役員と行事内容を検討
▼	
H24 年 1 月	業者と打合せ
▼	
２月	チラシなどを作成　学区内に配布、回覧
▼	
３月	役割分担の打合せ　招待状配布
▼	
４月	参加者把握、最終打合せ
▼	
５月	行事実施

5 成果と課題

（1）成果・効果

住民間の交流が深まった。三世代のみなさんが参加して、和気あいあいとした時間を過ごすことができた。

（2）苦労した点

活動の担い手が不足。役割分担をしても引き受ける人が少なく、苦労した。

（3）今後の課題・展望

活動の継続、担い手の世代交代が課題。担い手不足から行事の継続が近い将来難しくなると思われる。

瑞穂区　井戸田学区	住民交流	健康・福祉	青少年育成	環境・美化
	防犯・交通安全	防　災	歴史・文化・芸術	その他

「井戸田学区名所・旧跡めぐり散策の径ウォークラリー」の継承について

【井戸田学区】

■世帯数：3,486 世帯
■人　口：7,292 人
■面　積：0.655ｋ㎡
平成 24 年 4 月 1 日現在

1　活動・取り組みの内容

- 平成 22 年の名古屋開府 400 年記念事業で地域に眠る歴史を掘り起こして公表する“地域探検隊”を結成して「津賀田神社大祭　井戸田大山の山車・お囃子の由来」を調査した。昔からある名所・旧跡めぐりにその結果を盛り込み、ウォークラリーに反映した。
- 井戸田小学校を発着点として学区全域を巡る全長 3.5km を歩く。参加者数は約 200 人。

【住民への PR 方法】

井戸田学区連絡協議会の年間行事として提示

【アピールポイント】
約 1,000 年も前から続く重い歴史が井戸田の地に眠ることを、語り継ぐことは意義深いことである。

2　きっかけ、背景

井戸田学区では昭和 56 年４月に、当時の井戸田出身の市会議員が昔から伝わる名所・旧跡めぐり散策の径を開き、昔からある名所・旧跡がお年寄りを中心に言い伝えられてきていて、子ども会のウォークラリーとして体育委員会による交通安全のバックアップで進められてきた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員

計約 200 人

(2) 運営協力

調査結果やウォークラリーで得た情報や意見をホームページ「井戸田学区地域探検隊へようこそ(http://idotatankentai.main.jp/)」に反映。

4 実施のスケジュール

S56 年 4 月	「井戸田学区名所・旧跡めぐり散策の径」が開かれる
▼	
その後	井戸田学区体育委員会・子ども会でウォークラリー実施
▼	
H22 年 9 月	熱田文化小劇場で地域探検隊の調査報告
▼	
11 月	「新ウォークラリー」として改訂実施
▼	
H23 年 3 月	名所旧跡に掲げられていた歴史標識を新調し取替
▼	
11 月	新標識をたどってのウォークラリー実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- 住民間の交流が深まった。井戸田学区連絡協議会、子ども会、体育委員会、老人会の交流の深まりができた。

(2) 苦労した点

- 活動の担い手が不足。歴史史実を子どもたちに分かりやすく言い伝えるのに苦労する。

(3) 今後の課題・展望

- 昔から言い伝えられてきた史実の話ができるお年寄りがだんだん少なくなり、継承が難しくなってきた。
- 名所・旧跡めぐりの説明が作成されたころから変更されておらず、子どもたちになじみのある言葉で作り変える必要があると感じている。
- 毎年継続して子ども会の支援者が、新鮮味を持って史実を言い伝えて行くことに意義があるため、活動を継続していきたい。

(4) メッセージ・アドバイス

- 井戸田学区には、井戸田小学校の校歌にも取り上げられている古くからの史実があり、地域の人々の心の絆として大切に継承していきたい。

瑞穂区　瑞穂学区	住民交流	健康・福祉	青少年育成	環境・美化
	防犯・交通安全	防　災	歴史・文化・芸術	その他

男性による全学区的な防犯パトロール隊

【瑞穂学区】

■世帯数：4,904 世帯
■人　口：10,725 人
■面　積：0.937ｋ㎡
平成 24 年 4 月 1 日現在

1　活動･取り組みの内容

- 瑞穂学区の２２町内会から３人ずつ選ばれた男性のみのパトロール隊「瑞穂学区防犯パトロール」を組織し、毎月１回、学区 22 町内会一斉に夜間パトロールを行う。年間の延べ参加者数は約 800 人。
- 昼間のパトロールは既設の女性パトロール隊が行っている。
- パトロールの結果をまとめ、瑞穂警察生活安全課に提出し指導を受けているほか、毎年年末に特別警戒パトロールを瑞穂警察署と一緒に行う。

【住民への PR 方法】

隊員は各町内会で選出、毎年４月に隊員名簿を提出

【アピールポイント】

平成 17 年4月 20 日にパトロール隊を発足して以来、毎月パトロールを行っており、犯罪件数も減少し、地域住民の防犯意識も高まり、防犯パトロール隊員は感謝されている。

2 きっかけ、背景

侵入盗による被害が多発しており、地域住民へ注意喚起をするため、夜間に男性による防犯パトロールに取り組んだ。学区全体で治安の悪化傾向に対応することを目的とする。

3 実施の体制

（1）運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、ＰＴＡ、老人クラブ、スポーツ推進委員　計約 66 人

（2）運営協力

毎年４月に各町内会で隊員を選出

4 実施のスケジュール

H17 年４月	瑞穂学区防犯パトロール隊発足以降、毎月１回町内会全域でパトロール実施
▼	
毎年 12 月	瑞穂小学校体育館でセレモニーを開催したあと、瑞穂警察署生活安全課とともに年末に区別警戒パトロールを行う
▼	
H24 年３月	防犯診断教室を開催

5 成果と課題

（1）成果・効果

パトロール活動への参加者が増加し、住民の防犯意識が高まった。

（2）今後の課題・展望

活動を継続していきたい。

瑞穂区　豊岡学区	住民交流	健康・福祉	青少年育成	環境・美化
	防犯・交通安全	**防　災**	歴史・文化・芸術	その他

災害に強いまち豊岡

【豊岡学区】

■世帯数：3,770 世帯
■人　口：7,995 人
■面　積：0.908ｋ㎡
平成 24 年 4 月 1 日現在

1　活動･取り組みの内容

- 学区独自に 160 人の避難所運営組織委員を組織し、町内会総務班・施設班・食料班・物資班・救護班・炊き出し班など、各班別に実際に災害が起きたことを想定して防災訓練を行う。延べ参加者数は約 800 人。
- 平成 18 年に防災無線機を全町内会に２台ずつ、全 29 台の防災無線機を導入し、訓練に使用している。また、無線機を使用して年に３回高齢者世帯へ安否確認訓練を実施している。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧

【アピールポイント】
災害をイメージしながら、自分たちの防災訓練を行い、被害をできるだけ少なく、また防災無線機を活用し、災害時の被害情報の共有化、避難所の受け入れ等リアルタイムに知ることができる。

2　きっかけ、背景

行政に任せて防災訓練を毎年実施してきたが、行政頼みの訓練だけでよいのか疑問を抱くようになり、災害時は、自分たちのまちは自分たちで守らなければならないと、災害時のシミュレーションをしながら、実践に即した訓練をすることになった。平成 13 年に学区独自の避難所運営組織委員（約 160 人）を立ち上げた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、各町内会、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員

計約 160 人

(2) 他団体との協力

瑞穂区社会福祉協議会の災害ボランティアの指導を得て、災害時のボランティア受付等の訓練を実施している。

4 実施のスケジュール

毎年５月	水防訓練にて高齢者世帯、高齢者独居世帯の安否確認訓練
９月	総合防災訓練にて高齢者世帯、高齢者独居世帯の安否確認訓練
１０月	物資班・食料班・本部班合同会議 施設班・救護班・本部班合同会議 町内会総務班・本部班合同会議
１１月	第一日曜　学区防災訓練にて 高齢者世帯、高齢者独居世帯の安否確認訓練

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民意識の高まり、交流の深まり、担い手の増加。毎年同じ防災訓練を行うことで、各班委員の防災意識の高揚と各々が何をすべきかを理解している。

(2) 苦労した点

参加者の確保、住民の理解を得ること。学区独自の避難所運営組織委員を立ち上げた当初は、参加者の確保と活動への理解を得ることが大変だった。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続、担い手の世代交代が課題。地域では高齢化が進んでいるが、元気な高齢者が助け合う絆づくり（共助）をもっと広めたい。

(4) メッセージ・アドバイス

ふれあいネットワークを充実して絆を深め、町内単位で安否確認者を把握する支援をして、学区でまとめる体制の仕組みづくりを進めていきたい。

瑞穂区　中根学区	住民交流	**健康・福祉**	青少年育成	環境・美化
	防犯・交通安全	防　災	歴史・文化・芸術	**その他**

中根学区ソフトボールOB連盟メンバーによる地域の親睦並びに各種スポーツ行事や各種行事への積極参加！

【中根学区】

■世帯数：4,493 世帯
■人　口：10,816 人
■面　積：0.985ｋ㎡
平成 24 年 4 月 1 日現在

1　活動･取り組みの内容

- 中根学区の 16 町内 14 チームからなるソフトボール OB 連盟のメンバーが学区内の各種スポーツ行事等に積極的に参加し、地域の親睦を図る。
- 毎年ソフトバレーボール大会（年２回）、インディアカ大会（年１回）、３世代交流グラウンドゴルフ大会（年１回）にメンバーの３割強が参加している。
- スポーツ以外の各種行事等にも積極的にメンバーが参加しており、放火事件が多発した時には、夜中から朝方にかけて防火パトロールを行ったこともある。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧

【アピールポイント】

各町内会長や各種団体長に任ぜられるメンバーが増え、中根学区連絡協議会においても 23 人の内３割強がソフトボール OB や現役で占められるようになったため、団体間の意思疎通がうまくでき、協議会の運営もスムーズに運んでいる。

2　きっかけ、背景

昭和 59 年の連盟発足当初は、ソフトボールの好きなメンバーが町内ごとにチームを作り、９チームで活動を始め１年後には 15 チームとなった。その頃より学区内の各種行事に積極的に各メンバーが参加するように取り組んできた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

中根学区ソフトボール OB 連盟役員　約９人（会員合計 240 人）

(2) 他団体との協力

中根学区体育委員会、中根学区連合子ども会

4 実施のスケジュール

S59 年４月	９町内９チームにて組織（総当たりによるリーグ戦を行う）
▼	
S60 年	15 町内 15 チームとなる
▼	
以後毎年	学区内の各種スポーツ行事や各種行事への積極的な参加を継続 現在は 16 町内 14 チームにて活動中

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民間の交流の深まり。各種スポーツ行事には毎回 120～150 人もの多くの人が参加している。

(2) 苦労した点

活動の担い手が不足。幼い頃に野球を経験した人が少なくなり、連盟の加入年齢を 30 歳から 26 歳に引き下げたが、どこのチームも高齢化し加入者が減っている。

(3) 今後の課題・展望

活動資金の確保。バブル崩壊後、毎年作成する名簿の発行に協賛してくれる会社が年々減り、活動資金の確保が難しくなっている。各チームの負担を増やしてでも永く存続するよう努力していく。

(4) メッセージ・アドバイス

学区内での知り合いが多くなればなるほど、地域の防犯や各種行事にも関心を持つようになり、行事への参加の呼びかけも簡単にできるようになる。

瑞穂区　弥富学区	住民交流	健康・福祉	青少年育成	環境・美化
	防犯・交通安全	**防　災**	歴史・文化・芸術	その他

ネットワーク活動「学区はひとつの家族です」

【弥富学区】

■世帯数：5,131 世帯
■人　口：12,220 人
■面　積：1.529k ㎡
平成 24 年 4 月 1 日現在

1　活動・取り組みの内容

- 災害時に、「自分の身は自分で守る」ことはもちろん、住民同士が支えあう地域のコミュニティを活発化させ、近所同士のつながりという小さな力を、学区全体へ広げ大きな力にしていくため、「学区はひとつの家族です」をモットーに災害に強いまちづくりを進め、地域の防災力を向上させている。
- 防災セミナーの開催、防災マップの作成・見直し（年３回）、防災に関する住民の意見を聴くアンケート調査、避難所となるコミュニティセンターでの避難訓練の実施等の取り組みを行う。マップの見直しには年間約 180 人（約 60 人×3 回）の参加がある。

【住民への PR 方法】

民生委員とふれあい協力員・区政協力委員の有志により増やしていく

【アピールポイント】
１人だけ飛び抜けてできるようになるのではなく、多くの人が参加して誰でも指導することができるよう行っている。

2　きっかけ、背景

弥富学区は、閑静な住宅地となっており、地下鉄の駅の周辺にはマンションも増えてきている。また、東部は丘陵地となっているため坂が多くなっている。高齢者、子ども共に多い地域となっており、災害に備えてお互いに見守り支えあう地域を目指して平成７年にふれあいネットワーク活動を立ち上げ、助け合いの仕

組みづくりに地域住民が主体となって取り組んできた。「対象者名簿」、「個別支援の計画」を作成し住民同士の助け合いを明確にし、これにもとづいた訓練を継続して行うようになった。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、女性団体・女性会　計 100 人以上

(2) 他団体との協力

各種団体、高校生

(3) 運営協力

運営協力には、１人でも多くの人に役員になってもらい、手伝いをお願いしている。区政協力委員を交代するときに、ふれあい協力員として残ってもらえるとよい。

4 実施のスケジュール

H7 年～	ふれあいネットワーク活動（見守り、支え合う地域を目指して、ひとり暮らしの高齢者や障害を持った方など支援が必要な人を支える活動）
▼	
H19 年～	ふれあいネットワーク活動を活かして、災害時に地域のみんなで助け合う仕組みの構築
▼	
現在	災害に強いまちづくりのための取り組みに多くの住民が参加し、活動を発展させている

5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者の増加、住民意識の高まり、交流の深まり。日常のゴミ出しなど、高齢者などの生活支援活動を行うようになった。

(2) 苦労した点

住民の理解を得ること、活動の担い手の不足。ネットワーク活動に、ある程度の年齢までは集まるが、若い世代の担い手の確保が課題。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続、担い手の世代交代が課題。担い手の世代交代をしたくても、50～60 歳代の人はまだまだボランティアに関われないのが実態。

(4) メッセージ・アドバイス

学区全体が横のつながりを持つことが重要です。

瑞穂区　陽明学区	住民交流	健康・福祉	青少年育成	環境・美化
	防犯・交通安全	防　災	歴史・文化・芸術	その他

陽明バザー

【陽明学区】

■世帯数：5,614 世帯
■人　口：13,468 人
■面　積：1.791k ㎡
平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- 名古屋市総合リハビリテーションセンターを会場にバザーを開催。平成 23 年度までに 24 回開催している。参加者数は約 800 人。
- 学区内全世帯への拠出品の提供と回収、値札貼り等の準備を呼びかける。
- 平成 23 年度は地震・台風の被災地への災害義援バザーとして、実行委員会（8 人）を立ち上げて実施した。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、回覧、掲示版への掲示

【アピールポイント】
平成 23 年度で 24 回目の開催と継続して実施している。平成 23 年度の収益金で以下のとおり寄付を行った。
- リハセン研究基金＝100,000 円
- 東日本大震災義援金＝400,000 円
- 台風 12 号義援金＝125,972 円

2 きっかけ、背景

家庭に眠る不用品（資源）の有効活用を図り、学区の福祉・ふれあい事業と防火・防災・快適なまちづくりに役立てる資金づくりとして開催している。

3 実施の体制

運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員、運営協メンバー全員　２日間で計 147 人以上

4 実施のスケジュール

H23 年９月　実行委員会立上げ

▼

１０月　全世帯への協力依頼・拠出品提供依頼

▼

１１月　拠出品回収（区政協力委員宅で保管）

▼

開催前日　リハビリテーションセンターへ持込み、値札貼付け等会場準備

▼

１１月 27 日　バザー開催、後片付け

5 成果と課題

（1）成果・効果

- リサイクルについての住民の意識が高まったほか、住民間の交流が深まった。
- 平成 23 年度売上　506,400 円　寄付　232,000 円
  （収益金 625,972 円は地震や台風の被災地へ義援金として寄附）

（2）苦労した点

- 住民の理解を得ること。拠出品が年々減少している。

（3）今後の課題・展望

- 活動の継続が課題。収益金が減少している。（平成 23 年度は義援金として協力依頼を行ったため寄付金の増加があった。）

瑞穂区　汐路学区	住民交流	**健康・福祉**	青少年育成	環境・美化
	防犯・交通安全	防　災	歴史・文化・芸術	その他

65 歳以上の「独居の方に食事を提供」して 33 年！

【汐路学区】

■世帯数：6,637 世帯
■人　口：13,362 人
■面　積：1.353ｋ㎡
平成 24 年 4 月 1 日現在

1　活動・取り組みの内容

- 学区内の 65 歳以上のひとり暮らしの高齢者を対象に、年間 21～22 回、汐路コミュニティーセンターにて食事会を開催。1 回当りの参加者数は約 80 人。（年間延べ約 1,700 人）
- 食事は旬の野菜をふんだんに使って全て手作りし、６品以上のカロリー計算された献立に真心と愛情を加味する。
- 管理栄養士（ボランティアスタッフ）による老人向けの献立づくりと定期的な料理講習会を開催している。

【住民への PR 方法】

民生委員や運営スタッフ、参加者の口コミで参加を募集

【アピールポイント】

平成 24 年７月までの 33 年間で 477 回の開催となるが、衛生面でのトラブルは皆無であり、発足当時から「主婦による手作り食事会」をコンセプトに会員のみなさんのふれあいの場として機能し、地域の“絆”が確立されている。

毎回行うアトラクション、健康体操、血圧測定、公所による講話などは、楽しくて役に立つ内容となるよう主催者が配慮している。手作りの食事にこだわって月２回食事会を開催しているのは名古屋市内唯一だと思う。

2　きっかけ、背景

昭和 55 年に婦人会の会員から「近所の住むひとり暮らしをしている高齢者に食事を持って行くが、学区にはそうした方がたくさん居るはずであり、定期的に

集まってもらって食事を提供してはどうか」との提案があり、関係公所の賛同を得て婦人会・民生委員・区政協力委員会が「汐路給食ボランティア友の会」を結成した。「手作り料理を提供すること」をモットーに、厨房の整う「青年の家」で昭和 56 年６月に第１回を開催。参加者は６人だった。あくまでも「手作り料理を提供する」をモットーに、その後月１回継続して開催した。昭和 57 年より参加者が増加したこととスタッフが整ったことで、「東栄八幡社 社務所」に会場を移し、平成 12 年３月まで 20 年間開催した。なお、平成４年からは月２回の開催とし、平成 12 年４月よりコミュニティセンターにて開催している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

民生委員児童委員、給食ボランティアの会

１回あたり約 15 人ほどで、２班に分けて編成している。

（第一火曜と第三木曜開催）

(2) 運営協力

運営メンバーの任期が会則にあり、現在もスムーズに行われている。

他に区政協力委員、女性会、老人会がアトラクション等に協力。

4 実施のスケジュール

毎年１・２月	スタッフの料理研修会・食品会社見学会・スタッフ慰労会　参加者からの意見・要望について月１回の幹部会を開催
３・４月	65 歳以上独居世帯調査（民生委員）公所（署）の参加調整・年間の余興企画
５・６月	季節料理を楽しむ・公所による講話　保健所による食品の衛生指導・厨房監査
７・８月	スタッフ料理研修会・七夕祭り・専門医の健康講座を開催
９・10 月	季節料理を楽しむ 食品メーカーによる献立料理講習会
11・12 月	クリスマス食事会・役員扮するサンタによるプレゼントを全員に配付

5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者間の情報交換・仲間づくりが進み、社会参加を促進している。

(2) 苦労した点

発足当時は、町内会長、老人会の認識不足による偏見があった。

(3) 今後の課題・展望

運営スタッフが高齢化し、力仕事が苦痛となっており、作業の軽減を図る必要があるとともに、担い手の世代交代が課題。

(4) メッセージ・アドバイス

天候の悪いときでも、ひとり暮らしの高齢者が食事会に来て頂いたことに感謝する気持ちがスタッフにないと継続できない。参加者の笑顔がスタッフの活力となっている。